

水産業強化対策事業事後評価報告書

		大阪府 水産課	
目的	船びき網漁業については、相対取引から競り入札に移行したことにより、手狭になった荷捌施設を新設するとともに、まき網漁業については、必要所要量に満たない急速冷凍庫及び鮮度保管庫を整備し、漁業所得の向上を図る。		
目標	魚価向上を図ることにより漁業所得の向上を図る。	整理番号 1	
事業実施者	大阪府鰯巾着網漁業協同組合		
実施地区	泉州地域		
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度	
	平成28年度～29年度	令和元年度	
助成金額	549,750千円		
事業計画の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>荷捌施設（地蔵浜地区） 鉄骨平屋2,321.59㎡、製氷設備1式</li> <li>鮮度保持施設（地蔵浜地区） 鉄骨平屋1棟400㎡、冷凍保管庫500トン1基</li> <li>急速冷凍庫及び鮮度保管庫（臨海地区） 鉄骨平屋2棟、657㎡、急速冷凍庫20トン2基、冷凍保管庫350トン1基、脱パン設備1式</li> </ul>		
評価	取組の目標（KPI）	船びき網漁業及びまき網漁業の漁業所得	
	基準年	平成26年度 船びき網漁業 漁業所得 25,850千円	
		平成26年度 まき網漁業 漁業所得 163,842千円	
		令和元年度船びき網 漁業所得 22,758千円 令和元年度まき網 漁業所得 174,922千円	増加率 船びき網 72.0% まき網 106.8%
目標値	平成31年度船びき網 漁業所得 31,608千円 平成31年度まき網 漁業所得 186,453千円	増加率 船びき網122.3% まき網113.8%	
成果目標	船びき網漁業及びまき網漁業の漁業所得		
	現状値	荷捌施設（地蔵浜）船びき網漁業所得（1戸当たり）：22,757,515円 鮮度保持施設（臨海町）まき網漁業所得（1統当たり）：146,277,595円 鮮度保持施設（地蔵浜）まき網漁業所得（1統当たり）：217,890,994円	
	目標値	荷捌施設（地蔵浜）船びき網漁業所得（1戸当たり）：30,297,400円 鮮度保持施設（臨海町）まき網漁業所得（1統当たり）：163,016,101円 鮮度保持施設（地蔵浜）まき網漁業所得（1統当たり）：221,609,396円	
(1) 現状値の説明	船びき網については、平成29年度1戸当たりの漁業所得28,247千円（シラスの単価539円/kg）、平成30年度39,979,585千円（シラスの単価単価808円/kg）であったが、令和元年度については、シラスの単価が全国的な豊漁もあり、376円/kgと低迷したため、漁業所得が伸びなかった。 また、まき網漁業についてもカタクチイワシの漁獲量が減少傾向にあることが、漁業所得の伸び悩む要因となった。		

<p>(2) 地域への経済効果 (ハード事業のみ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荷捌施設 船びき網漁業の競り入札場として府下68統全ての船びき網漁船が地蔵浜で水揚げをするようになり、入札価格が大きく向上した。</li> <li>・鮮度保持施設 急速冷凍庫と鮮度保管庫を整備したことにより、これまで餌料として利用されていたボラ等の魚を海外向けに輸出できるようになり漁業所得の向上を図ることができた。</li> </ul>
<p>(3) 所見</p>	<p>魚価の低迷により漁業所得は伸び悩んだが、特に荷捌き施設については費用便益率の面から導入の効果が高く、競争力強化の面において大きな役割を果たしたと言える。</p>
<p>(4) 評価機関の意見等</p>	<p>該当なし</p>
<p>今後の改善方向等に関する分析</p>	<p>広域浜プランの中核的な共同利用施設として、大阪府内の船びき網漁業全統がイワシシラスやイカナゴを共同で水揚げする体制が確立されたので、今後は大阪産のブランド力を高めて、より一層の漁業所得向上につなげる必要がある。</p>